

平成30年度 第1回 熊本市生涯学習指針策定委員会

会議録要旨

【開催日時】平成30年7月27日（金）10:00～12:00

【開催場所】熊本市教育センター 第1研修室

【出席者】

■ 生涯学習指針策定委員会委員

古賀 倫嗣 委員
 山平 敏夫 委員
 乙丸 孝嗣 委員
 日高 加寿美 委員
 中川 保敬 委員
 檜木野 史貴 委員
 加藤 貴司 委員
 石井 憲子 委員
 合谷 道生 委員
 佐々木 信文 委員

以上10人

《欠席者》

なし

■ 事務局

- ・ 生涯学習課長 渡部 秀和
- ・ 教育政策課長 上村 鋭二
- ・ 川口社会教育主事（生涯学習課）
- ・ 赤木社会教育主事（秋津公民館）
- ・ 藤本社会教育主事（清水公民館）
- ・ 西主幹兼主査（生涯学習課）
- ・ 松原参事（ 〃 ）
- ・ 大森主任主事（ 〃 ）

以上8人

発言者	発言要旨
	【開会】
市民局長	【委嘱状交付】
市民局長	【挨拶】
委員	【委員長及び副委員長選出】
市民局長	【諮問】
生涯学習課長 事務局	【議事（1）】熊本市生涯学習指針の概要について
委員長	事務局から説明がありましたが、委員全員にご意見をお伺いしたいので、委員の皆様が関係されている団体や個人の学習活動状況や課題等について、ご自由にご発言いただきたいと思います。また、事務局へのご意見、ご質問等がありましたら、あわせてお願いいたします。

発言者	発言要旨
委員	<p>私自身、熊本地震を経験して、生涯学習をどのように生かしていけばいいか、生かしていくことが大事だと感じているので指針の施策として必要と思っています。</p> <p>また、アンケートでは、公民館利用率が低下しているとなっているが、他都市との比較ではないのではっきりわからないが、私自身は、熊本市の公民館の利用者は全国的に高いのではないかと感じているので、これまで公民館や図書室が利用されていることや、活用されているという「強み」を生かした指針が必要ではないかと思っています。</p> <p>成果の活用とよく言われますが、自分の居場所であったり、必要だと求められたりがなければ、自らの成果を出すことは難しいと思いますので、低年齢のうちから「熊本市が大好き」な子ども達を、生涯学習の中で育ていければ、熊本を居場所として、学びを還元できるような社会が構築できると思います。</p>
委員	<p>現指針の10年間の成果指標を見ると、本市では平成20年にまちづくり交流室を設置し、地域づくりに取り組んでいるが、なぜ平成27年度のアンケート結果の生涯学習をした割合が最低値になったのか。その理由として、「庁内関係課や民間団体との連携不足」、「公民館利用者数の減少」、「学習成果を還元できる場の不足」が課題になっているが、もっと分析等が必要ではないか。また、その分析を踏まえた解決策も必須と考えられるので、「生涯学習を行った市民の割合」の全体的減少の理由、高齢者が増加しているのに、公民館利用者数が減ったことについて、見解を伺いたい。</p>
生涯学習課長	<p>おっしゃる成果指標は、総合計画のアンケート結果となっております。毎年、アンケートの対象者も異なるため、聞き方が同じでも回答者の認識にもブレがあったりして、「生涯学習」の観念についてご理解いただけないまま回答されている方も多いと思っています。</p> <p>平成30年2月に生涯学習課で2,000人アンケートでは、生涯学習に特化した聞き方をして46%という数値が出ていますが、それでも10年前と比較すると、0.5ポイントの減となっています。その要因は、仕事忙しいなどが考えられます。</p> <p>また、公民館利用者数と高齢化については、詳しい分析は行っておりませんが、公民館図書室の利用者も減っており、全体的に利用者が減少しているので、利用者のニーズに合った民間カルチャーセンターの利用など、「分散化」も考えられるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>公民館利用者数については、主催講座・自主講座・貸館の統計であり、特に自主講座については講座数の減少に伴い、利用者数の減少につながっている。</p>
委員	<p>公民館(まちづくりセンター)が行う講座などで、魅力的な講座があっても時間が合わずに参加できないという声もあるが、小学生の親を対象としている講座等は多くあると思うが、中学、高校世代の親を対象とした講座が少ないので、これらを増やせば利用者層も広がるのではないか。</p>
委員	<p>人生100年時代と言われますが、一番の基本は「健康」と考えます。これをどのように、施策の体系図に位置づけていくかが重要であると考えます。</p> <p>3つの基本施策が挙げられているが、この施策が「目的」、現指針で言う「わくわく学習都市くまもと」にどう貢献できるのか、成果として見ていくことにしないと、分化した事業をやっていくことになるのでしょうか。成果指標が「1年間に生涯学習を行った市民の割合」となっていますが、もう少し細かく設定していくことが、活動者の把握や、減少の防止につながるのではないかと思います。また、関係機関との連携については、もう少し違う組織体との連携もひとつの方法ではないかと考えます。</p>

発言者	発言要旨
委員	<p>公民館講座の受講生としての実感ではあるが、男女比4：6くらいの割合になっていると感じている。もう少し男性が興味を引くような講座を充実させていただきたい。各公民館のサークル同士の情報交流を図って行けばいいのではないかと。また、生涯学習講座のPRが不足しているように感じている。</p> <p>委員からもあがったが、成果指標についての分析が必要と思う。また、平成30年度の目標値そのものが高すぎたのではないかと。</p>
委員	<p>民間カルチャーセンターの現状としては、毎年、利用者数は減少傾向にあります。自治体（指定管理含む）の主催講座に移籍する受講生も多い。生涯学習の観念からすれば、どこかで学んでいるため問題ないと思っています。要望として、熊本市は生涯学習情報くまもとのHPを有していますので、民間教育事業者のバナーを貼ることで、互いの情報提供になり、市民の健康づくりや生きがいづくりに役立つと思います。より良い官と民の連携ができればと考えています。</p>
委員	<p>委員がおっしゃった、熊本地震後の対応は必要だと思う。また、成果を生かす環境づくりとして、65歳以上を対象とした、孫を育てることに生かせる講座なども考えると利用者の増加も見込めるのではないかと。</p> <p>人生100年時代を迎え、地域で自立して活躍できる、そのような人を増やす、またその場を提供できる環境づくりも必要である。</p> <p>敷居が高く感じる公民館を自由に出入りできる場とすることも必要である。</p>
委員	<p>まちづくりセンターと公民館との連携をもっと行い、まちづくりセンターをより良く機能させる取組を検証しながら実施することが必要であり、情報提供と相談機能の充実が大事だと考える。</p> <p>場の提供や施設の提供は少しずつできてきていると思う。情報を提供できるという行政の強みを生かしてほしい。これから先、インターネットでの情報が主となってくるので、情報提供の中に、公設公民館と同様に地域コミュニティセンター等の情報も提供できればいいと思う。情報の更新については、頻度を増やすことが大切。</p>
委員	<p>学びたいと思ったとき、即座に確認できるような、情報の集約、一元化ができれば良いと思う。生涯学習を「地域や社会での活動に生かす」ということをもっとわかりやすく具体化して表現してはどうか。</p> <p>自身の活動の中で、文化協会では子ども文化祭を行っている。太鼓や踊りなどの地元の子ども文化が、存続するきっかけとなっていると思う。この活動には、指導者が必要となるため、生涯学習をしてきた方の活用ができています。</p> <p>例えば、夏目漱石に関する事業では、熊本大学と連携するなどしているため、広く連携を図ることも必要である。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>インターネットやHPのご意見がありました。</p> <p>まとめさせていただくと、基本的には、現行の基本施策に対して反対意見はありませんでしたので、今後は、現行の【基本施策】に挙げる：生涯学習ネットワークの構築、学習機会の充実、学習成果を生かす環境づくりの3つの枠組みの中で、本日いただいた意見を整理していきたいと思います。</p> <p>1 生涯学習ネットワークの構築 文化やスポーツなどの異なった組織との連携協力 民間教育事業者との連携など</p> <p>2 学習機会の充実 保護者世代が魅力的に感じるプログラム 高齢者の健康づくりや生きがいづくり</p>

	<p>3 学習成果を生かす環境づくり 人材の活用</p> <p>ご意見にはありませんでしたが、例示されていた障がい者の生涯学習についても知恵を出していきたいと考えているところです。また、地域の中でどのような形で高齢者や子ども達が関わっていく仕組みを作っていくか、「地域共生社会」という観点からの整理も必要だと考えています。</p> <p>また、推進システムについては、生涯学習者の裾野の拡大のため、まず目に見えて問題となってくるのは「公民館利用者」との意見がありました。アンケートで利用者の減が見られますので、現場の社会教育主事の話ヒアリングしていただきたいと思います。</p> <p>あわせて、2点付け加えます。</p> <p>4の成果指標についてですが、全く議論しておりませんが、数値目標として挙げるかどうか、その数値については、第2回以降の検討課題とさせていただきます。</p> <p>5の熊本地震のことを学ぶべき背景とすることで、熊本市ならではの指針施策となるのではないかと。</p> <p>以上5点を踏まえながら、現行指針を生かしつつ、新しい必要なもの充実あるいは補足させていく、という方向性でよろしいでしょうか。</p>
委員	全員、異議なし
事務局	【議事（2）】専門部会の設置（案）について 生涯学習指針策定委員会運営要綱第6条の規定に基づき、ワーキンググループを設置したい。
委員長	委員長として認めたいと思うがよろしいか
委員	異議なし
事務局	【議事（3）】策定スケジュール（案）について
委員長	策定スケジュールについては、事務局提案のとおり承認する
事務局	【議事（4）】その他について 第2回開催日について、日程調整・・・8/31決定
委員長	<p>補足、公民館利用者が減っているという話がありましたが、熊本市は小学生の公民館利用者が他自治体と比較して高い。子どもチャレンジ公民館事業では、リーダーが育っているのではないかと。</p> <p>先ほど精査した、3の人材の育成で、子ども達を位置づける「次世代育成」の議論をさせていただき、熊本市が大好きな子ども達をどのようにつくっていくか、今後、活発な議論をさせていただきたい。</p> <p>委員の皆様から何かご意見はございますか</p>
委員	異議なし
事務局	【閉会】